

子どものやる気に拍車が掛かるとき
ー運動遊び場面への質的アプローチー

西村 拳弥 (スポーツ学研究科 競技スポーツ系 スポーツ情報戦略分野)

主査 豊田則成(指導教員) 副査 林綾子, 高橋佳三

Spurring the increase of a child's motivation
- Qualitative approach to physical play activity situations -
Kenya Nishimura

キーワード：子ども，やる気，運動遊び，質的研究

Keyword : Child, Motivation, Physical Play Activities, Qualitative Research

【緒言】

本研究の関心事は，子どもが運動遊びに取り組む中で子どもの心理的側面がどのように変容しているのかを質的に検討することにある。

したがって，本研究は「どのように子どものやる気に拍車が掛かるのか」というリサーチ・クエスション（以下：RQ）を設定し，質的にアプローチし，発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出すことを目的とする。

【方法】

- 1) 観察校：S 県内において運動遊びの指導を行っている小学校。
- 2) 観察対象：6 年生，男児，1 名。
- 3) 観察期間：2014 年 4 月～2015 年 7 月。
- 4) データ収集方法：運動遊びの指導場面を観察している際に記録した観察記録。子どもが運動遊びに取り組んでいる様子をビデオカメラで撮影した映像記録。この観察記録・映像記録を分析データとした。
- 5) 分析手順：①エピソード記述(鯨岡, 2005)を参考に映像から子どものやる気に拍車が掛かったエピソードを抽出。②抽出したエピソード毎に複線経路・等至性モデル(サトウ, 2012)を参考に TEM 図を作成し視覚化。③視覚化した TEM 図をグラウンデッド・セオリー・アプローチ(戈木, 2008)を参考にまとめ，最終的な概念図(図 1. 運動遊びに取り組む子どもの心理体験モデル)を作成した。

【結果と考察】

分析の結果から「どのように子どものやる気に拍車が掛かるのか」という RQ に対し運動遊びに取り組む子どもは「①運動遊びを始めるものの，やる気にブレーキが掛かるようなことがあると，②運動遊びから離れていってしまう。しかし，自分が注視されているということに気が付くことがきっかけで，③遊びの場に入っていく様になる。そして，④積極的に遊ぶ中で楽しい経験を積み重ねることによって，⑤もっと遊びたいと思うようになる」というプロセスでやる気に拍車が掛かるという仮説的知見を導き出した。

【総括】

上記の考察から，運動遊びの指導者が子どもの遊びたいという思いに寄り添うことで子どものやる気に拍車が掛かるということを導き出した。

以下の 5 点を現場への提言とする。

- 1) 子どものやる気に寄り添うことが大切である。
- 2) 子どものやる気が停滞している時にも意味があることを理解する必要がある。
- 3) 運動遊びから離れた子どもと遊びの場との関係を繋いでおく必要がある。
- 4) 子どもが楽しい経験を積み重ねられる遊びの『場』を整える必要がある。
- 5) 子どもの遊びたいという思いに寄り添うことが大切である。

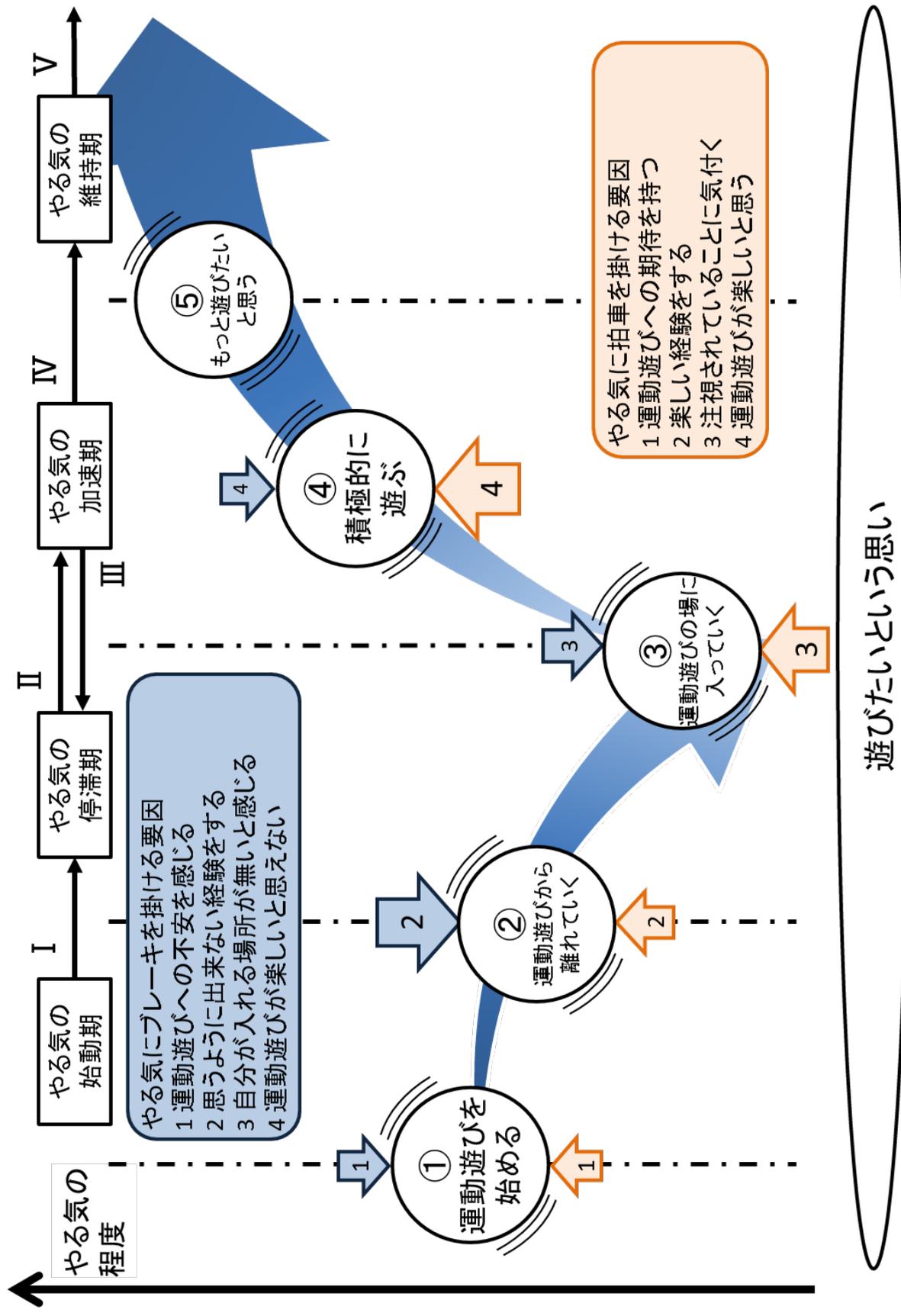


図1. 運動遊びに取り組みむ子ども心理体験モデル